

東京オリンピックに向けブランド認知活動、生産体制増強——TOKYO X-Association 総会、15周年交流会に300人参集



TOKYO X-Association 総会、15周年交流会には300人が集まった

TOKYO X-Association（会長・植村光一郎（株）ミートコンパニオン常務執行役員）は5月21日、東京・芝公園の東京プリンスホテルで平成26年度の通常総会を開き、25年度事業報告、26年度事業計画、役員改選などを原案通り可決・承認した。今回は設立15周年を記念した交流会も行われ、TOKYO Xにゆかりのある消費者ら約200人を招待、総勢350人にも及ぶ盛大な式典となった。

今年度1万頭、5年後には2万頭出荷目指す

北京黒豚、イギリス系黒豚、デュロップ種を交配させて作出した「TOKYO X」は、上質の赤身と脂肪がほどよく混ざった肉質が特徴で、平成11年秋から出荷が始まり、生産者組織として「TOKYO X 生産組合」（中村豊組合長）が組織され、現在、都内外26戸の養豚農家によつ

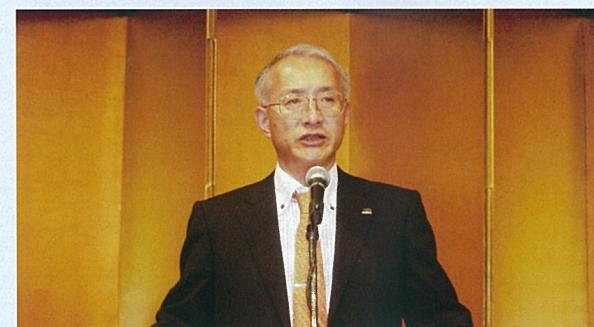
て、「安全性（Safety）」「生命力学（Biotics）」「動物福祉（Animal welfare）」「品質（Quality）」の4つの理念を持つ「東京SaBAQ」の考え方に基づき飼育されている。その流通組織である「TOKYO X-Association」は設立15周年を迎え、食品流通企業などの会員数は現在146社・320店舗にも上る。

平成25年度の出荷頭数は8247頭で、今年度は1万頭出荷を目指すとともに、共同生産出荷に関する協議や枝肉目合わせ会、トレーサビリティ検討委員会などを実施するとともに、「TOKYO X」を通じた食育事業参加やアグリネイチャー事業、地産地消支援事業参加、TOKYO X格付け検討委員会、農場HACCP研究会参加などを予定。さらに、TOKYO Xの原々種豚は現在、東京都農林水産振興財団で雌50頭、雄20頭が維持されているが、東京オリンピックに向けて増産体制を進めていく。

総会の開会に当たりあいさつを述べた植村会長は、25年度は目標についていた出荷頭数9000頭を下回る8247頭だったことを報告し、その原因について夏場の暑さなどによる繁殖成績の悪化などを挙げた。しかし、会員農場においては現在日本中を震撼させているPED（豚流行性下痢）の影響は出ておらず、26年度

は1万頭出荷を目指していることを強調。さらに専用飼料の配合設計を変更し、飼料用米を15%添加。このことで脂肪融点が2%ほど低くなり、柔らかく、甘い香りが強調されてきており、これを説明し、「TOKYO X-Associationが20周年を迎える5年後、東京オリンピックの1年前を目途に、青梅畜産センターの母豚供給の増強、世界への情報発信、オリンピック指定食材認定に向けての活動などを実現し、年間2万頭の出荷体制を目指し、生産・販売の充実を図っていきたい」と意欲を見せた。

来賓には、東京都都議会議員の清水孝治氏、東京都産業労働局農林水産部農業振興課課長の平野直彦氏が招かれ、平野氏は「TOKYO Xのうまさには舛添要一都知事も感動しており、東京オリンピック開催に向けさらに振興を図りたい」とあいさつ。公益財団法人東京都農林水産振興財団理事長の松本義憲氏は、「TPP交渉などによる今後の国際化の激化で、さらに高品質な豚肉が求められるが、その点ではTOKYO Xは時代を先取りしたトップレベルの豚。青梅畜産センターでも母豚配布増強などに努め、TOKYO Xの増産を図りたい」と述べた。そして、公益社団法人日本獣医師会顧問・農場管理獣医師協会会长の北村直人氏に続き、シンガポールのTPP交渉をめぐる閣僚会議で要請活動を行い帰国したばかりの公益社団法人中央畜産会副会長の菱沼毅氏があいさつし、「今後は輸入豚肉と国産豚肉の差別化がさらに重要になる。TOKYO Xは種豚とともに特色ある専用飼料を与え、さらには飼料用米を15%配合するということで、これから国産豚肉がいかに特色を出していくかという面ではすばらしい事例だと思う」と賛辞を贈った。



増産体制、五輪指定食材認定に向けて

総会では、25年度の事業報告では、格付け規格・指定配合飼料の検討、東京都食育フェア出展、稻村中学校社会科授業、日本獣医学院授業講義、飼料用米普及セミナー講演発表などの活動実績が報告された。そして26年度事業計画では、トレーサビリティ検討委員会会議、食育



植村会長とハンガリーのピック社のパラノビチ・ノルバート氏による対談会

事業参加、アグリネイチャー事業参加、地産地消支援事業の参加、農場 HACCP 研究会参加、東京オリンピック対策協議委員会の実施などが予定されている。

今回の総会では任期満了に伴う役員改選も行われ、植村会長以下、副会長に糸瀬好弘（株）三越伊勢丹フードサービス取締役製造部長）、理事・監事に佐藤進一（株）京王プラザホテル八王子事業部総料理長）、理事に中村敏章（株）人形長今半精肉総菜部課長）、小林和人（株）大多摩ハム小林商店社長、北村陽三（株）セントラルフーズ生産統括部原料部部長）、林実（合）西友食品二部畜産担当ダイレクター）、幹事・書記長に小石伸市（株）ミートコンパニオン執行役員兼ミートパッカー部長）、監事・書記に小石隆二（株）ミートコンパニオン神奈川事業所ミートパッカー部製造課長）、小林直樹（株）ミートコンパニオン神奈川事業所ミートパッカー部神奈川事業所課長代理）の各氏が選任された。

その他の議案として、植村会長から飼料用米を15%配合した専用飼料の内容（表1）などを説明するとともに、TOKYO X-Association 設立20周年を迎える2019年が東京オリンピック開催1年前に当たるということで、さらなるブランド認知活動、世界への広報活動、（2万頭出荷計画に向けての）青梅畜産

センターの母豚供給体制増強、オリンピックの指定食材認定に向けての活動などに取り組んでいくことが提起された。

そして総会の最後には、これまで TOKYO X の発展に貢献した人たちの功績をたたえる表彰式が行われ、元 TOKYO X 生産組合長で現在顧問の榎戸武司氏に東京都知事賞が、同じく元 TOKYO X 生産組合長の青木清氏と TOKYO X の生みの親である兵頭勲農学博士に東京都農林水産振興財団理事長賞が贈られた。榎戸氏は長年、TOKYO X の生産に携わってきた中で、都市型農業の新たな可能性が拓かれ、高品質豚肉の生産が実現できたことに対し、改めて関係者の努力や協力に深い感謝の意を表するとともに、他に負けないブランドとしてさらに発展させるよう努力する誓いを受賞のあいさつとして述べた。

23年前、198頭まで激減したマンガリツツアが5万頭に

総会終了後は15周年記念講演会として、「TOKYO X の歴史とこれから、そして世界の友人の紹介」と題し、植村氏とハンガリーのピック・スゼジド・サラミ&ミート・プロセシング社（ピック社）のパラノビチ・ノルバート氏との対談会が開かれ、消費者を含め300人が聴講した。

対談のメインテーマはやはり、ハンガリーの国宝（食べる国宝）とされる「マンガリツツア」。マンガリツツアはハンガリーで19世紀に生まれた血統で、全身を羊のような巻き毛で覆われ鼻先とひづめが黒く、皮下脂肪が分厚く、体の65～70%が脂肪という高脂肪の豚で、赤身より白身が珍重され、第二次大戦までは数100万頭が飼育されていた。



TOKYO X 肉豚



TOKYO X 肩 5-6 カット断面

しかし、放牧が基本的な飼育方法であり、飼育スペースが必要な上、成長が遅く、産子数が少ない。白身と赤味の比率を考えると歩留りが非常に悪く、さらに第二次世界大戦以後、冷蔵庫が普及し、保存のきく白身の必要性がなくなったことなどを背景に、1991年には198頭にまで激減してしまった。

このマンガリツツアに価値を見出し、絶滅から救おうと1991年から各地に残された個体198頭を収集したのが全国マンガリツツア飼育業者連盟の会長であるトート・ペーテル氏。トート氏が誇るのはその味わいで、「マンガリツツアは血統として国内や近隣の国で小規模な生産は行われているが、ハンガリーの気候風土と伝統的な飼料できちんと育てたマンガリツツアは味がいい。例えば我々は、肉に独特の匂いを残す大豆を与えて、ハンガリー特産のひまわりの種、大麦、小麦、トウモロコシなどを餌の9割以上している。厳しい飼育方法を守るように飼育家と契約を結んで、ブランド豚として育てている」（トート氏）とのこと。現在も放牧によりマンガリツツアは生産されており、白系の豚との交

雑は行わないという。

現在ハンガリーで5万頭ほど飼育されているマンガリツツア。契約生産しているマンガリツツアを自社工場でサラミなどに加工するピック社は、市場に出回るマンガリツツアの大半を供給しており、マンガリツツアの生ハム（24ヶ月の熟成）も完成させた。

表1 TOKYO X 専用飼料の配合設計

原料名	マッシュ	クランブル	現在設計
NON-GMO トウモロコシ	20.00%	9.60%	6.300%
飼料 米			15.000%
マイロ	29.00%	26.40%	37.000%
小麦		20.00%	
大麦	25.00%	26.00%	20.000%
NON-GMO 大豆粕	13.77%	8.00%	6.000%
アルファルファ	2.50%	2.50%	2.500%
ふすま	5.00%	4.60%	10.00%
食塩	0.35%	0.30%	0.290%
タンカル	90.00%	1.48%	1.785%
リンカル	1.30%	83.00%	0.950%
リジン	0.08%	0.19%	0.060%
メチオニン			
豚用プレミックス	0.10%	0.10%	0.100%
セレン酵母			0.015%
糖蜜	2.00%		
小 計	100.00%	100.00%	100.000%
CP	13.80%	12.67%	11.86%
TDN	72.80%	73.03%	72.72%
Ca	0.75%	0.86%	0.99%
TP	0.60%	0.52%	0.50%
有効P	0.37%	0.27%	0.28%
ナトリウム	0.18%	0.15%	0.15%
リジン	0.75%	0.68%	0.53%
トレオニン	0.53%	0.43%	0.42%
トリプトファン	0.19%	0.16%	0.15%
プラス・シスチン	0.48%	0.44%	0.42%
セレン	0.14%	0.17%	0.33%